

令和4年10月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,664	8,911	4,548	4,363	20	40
2 千 石	3,923	6,706	3,417	3,289	11	18
3 内 山	5,638	7,900	4,206	3,694	△ 4	△ 22
4 大 和	3,541	6,690	3,295	3,395	4	6
5 上 野	7,418	15,416	7,550	7,866	△ 38	△ 59
6 高 見	7,284	13,173	6,298	6,875	△ 17	△ 33
7 春 岡	6,907	10,891	5,730	5,161	△ 40	△ 45
8 田 代	11,299	21,811	10,433	11,378	△ 6	△ 43
9 東 山	10,306	19,184	9,375	9,809	1	△ 14
10 見 付	4,578	8,513	4,257	4,256	36	40
11 星 ケ 丘	3,539	6,841	3,037	3,804	10	4
12 自 由 ケ 丘	3,556	7,269	3,298	3,971	8	12
13 富 士 見 台	6,501	15,214	6,932	8,282	△ 8	△ 28
14 宮 根	3,814	8,105	3,757	4,348	18	14
15 千 代 田 橋	3,725	8,309	3,919	4,390	6	18
千 種 区 計	87,693	164,933	80,052	84,881	1	△ 92
R3.10.1	86,925	164,907	80,052	84,855	△ 28	△ 54
対 前 年 比	768	26	0	26	29	△ 38
名 古 屋 市	1,143,119	2,325,778	1,141,841	1,183,937	524	△ 389
愛 知 県 (R4.9.1)	3,292,740	7,500,357	3,736,282	3,764,075	832	△ 2,222

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	88	141	△ 53	984	1,023	△ 39

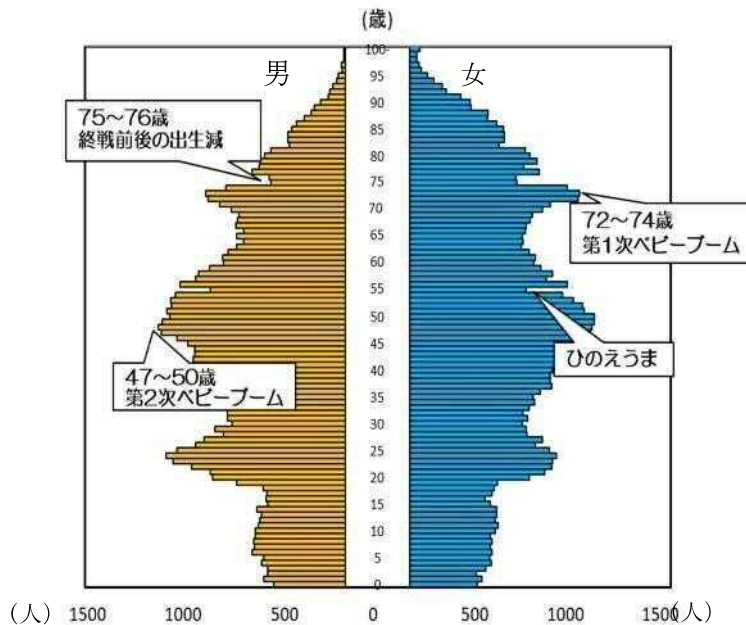
【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の年齢各歳別人口構成と年齢 3 区分別人口の推移

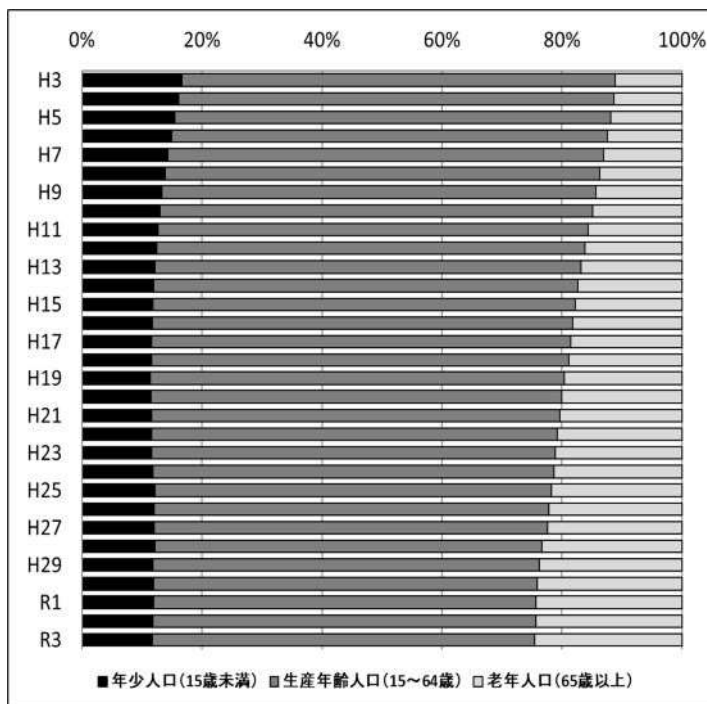
今回は令和 3 年愛知県人口動向調査結果に基づいて、千種区の年齢各歳別人口構成と、年齢 3 区分別人口の推移を見ていきます。



令和 3 年 10 月 1 日現在の千種区の人口を年齢各歳別人口構成でみると、75～76 歳の年代は第二次世界大戦の影響によって、また 55 歳は「ひのえうま」の影響により人口が落ち込んでいます。

また、72～74 歳は第 1 次ベビーブームの影響によって、47～50 歳は第 2 次ベビーブームの影響によって大幅な出生増となっています。千種区の人口ピラミッドは、この 2 回のベビーブームの影響に伴う 2 つのふくらみを持つ「ひょうたん型」となっています。

図 1: 千種区の年齢各歳別人口構成（令和 3 年 10 月 1 日現在）



平成 3 年から令和 3 年の各年 10 月 1 日現在の年齢 3 区分人口の割合の推移を見てみます。平成 3 年と令和 3 年を比較してみると、年少人口（15 歳未満）の割合は 3.9 ポイント、生産年齢人口（15～64 歳）の割合は 8.4 ポイント減少したのに対し、老年人口（65 歳以上）の割合は 13.0 ポイント増加しました。

詳しく見てみると、年少人口の割合は平成 12 年まで減少傾向でしたが、以降は横ばいとなっています。生産年齢人口の割合は平成 7 年をピークに減少。老年人口の割合は増加を続けています。

図 2: 千種区の年齢 3 区分人口の割合の推移（各年 10 月 1 日現在）